娼妓地理記　全

へ13
2947
3

理地概說

3
ヘ13
3006
ヘ13
2947
3
昭和九年
七月一二日
購求

序

書林の孔り形多ぐ〳〵。無い者
者を〻つ〻折う〻。本店のぐら〻
介吉原弼見ちゝとまりて来る
なら見ゝは。七月八大改盆米
を拾ひ拾ひ集ぐ〻。修行

百軒亡八百人。むうふの人ゝ世界
ゝ信ぐの絵者。九部脚ぐ〻ちうこん
〳〵。吉坂八生還めしゝ。
迂路繼場ふ筋多仲か。
かまくらこにたちけて御墓
の海ふ居いけもせぬへめゝれ

えとゞ氏宮たゞ見て小田原ゆし。

〜〜〜〜〜も賞唐のゝく〜

夫ハ外郎是ハ青楊こゝ乃

祢り紙の淫色し〜〜〜茶色

表紙や口拓子ゆ乃浦子と

〜〜〜〜〜

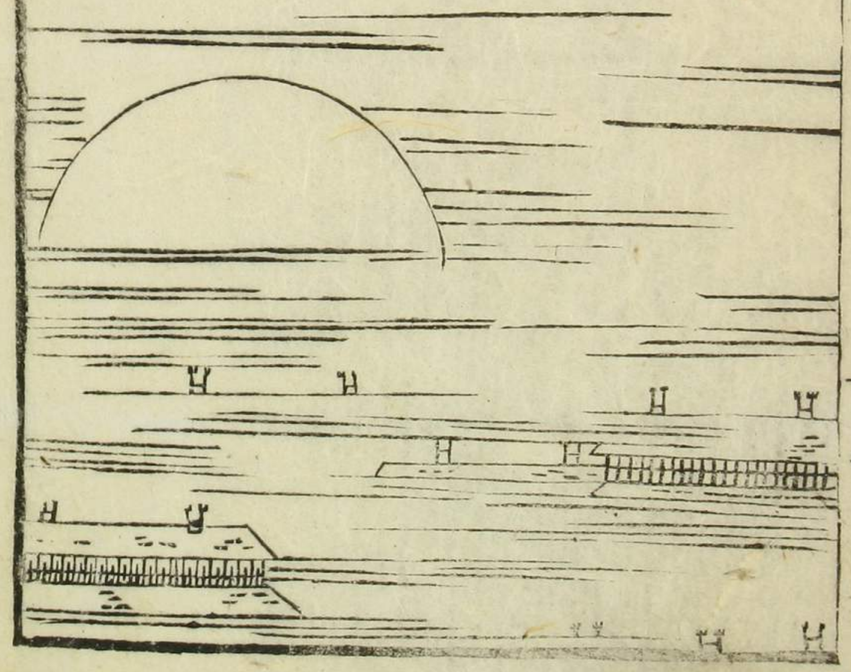
歌倡妃地理記譜曰

乙樓

中婦

風流警

論評



娼妃地理記

扶桑東武の北面にあたりて
武州の柳巷國の原野を墾て日本
國常立尊より天神七代地神五代と
續き其天神七代目の男神とだ伊弉
諾尊と申す神御造を伊弉冊尊とたて
て夫婦とし其妹を女神とし

そもそもこの家もとは天の岩戸
のそばに開くこと久しい。尊柱とえまでしら
をぐもんとおつけなひしらう。二柱の御神
とはやとうや。は時三ツふたんハ海をて天注
さもかい時代あるこだ。夫婦の御神ハ主べ
たふだ〳〵と痛てけをうとひまつと。余り
浪浪おわつぐ古目覚めて紙ぐーと。臣下
いさめやけるこハ南時をりがりといふものの

監舘〳〵は時鶯鈴といふ名を明函橋〳〵
高て。あるのまくだひとゆ高やらの高見
ぐ〳〵ぐんとゆ〳〵いふ高を初めがひて日本
う高ぐ〳〵の開山。陰陽の和をハなる
ひけるを天の浮橋と手授を。はる
の逆鉾を高〳〵とぬき。そよはの系を
めつくむせ〳〵にさぐりひしに。はの系乃
ぐのう〳〵と脈の下をさぐりの開。芦系

甚こそだゆゞりてちけりまろひつ氣ひ
しゆく祥のたてこぐていのごとゝあり股の
外ゆくこうかゝるつてのゝ高となる新。
これを南膳部州豊葦原大日本国と
そうぶ又おのころ指といふも彼いのこの名
あるべ。そなこれとゝ六十六ケ国ふつうち。
一国の内あてゝ又耶といふ地とつけられ
しまとゝこれ皆ゝ国のなるべし。

彼ゝ国ゝ地又胡芽諸胡芽冊として婦支八
市神かりまゝ。仕神八変ゝ子ゝ変ゝ
神七代目の市神ゝて。呉神ゝ代のゝ
かゝ母ゝて口ゝ世ゝ仕神大のゝ
さよにてまりまゝ須けぬ乳ゝ
ゝひゝれも思ゝいふものゝ指てゝんと思ゝ。
天の浮橋八釜の鍵物ゝも眩曜ゝれ
人神さんや乃指のゝ殺のゝ

そうて来そうを来をさぐりのふかぶと
の漏こうかくまうて積くおり痛くなる。
名鮮の仏菩文字といふ人うれをきりゐ
まて所の里と名ん。則日本のおつうつせ
ふて。北仙帰州射吉原大月本国と
名づけ申ふ。そうはふをあッ母とうちゐ
の内ふて聖とそうう。それ古日本とも
遠ひて聖ハ時くに情感あり。聖の名も

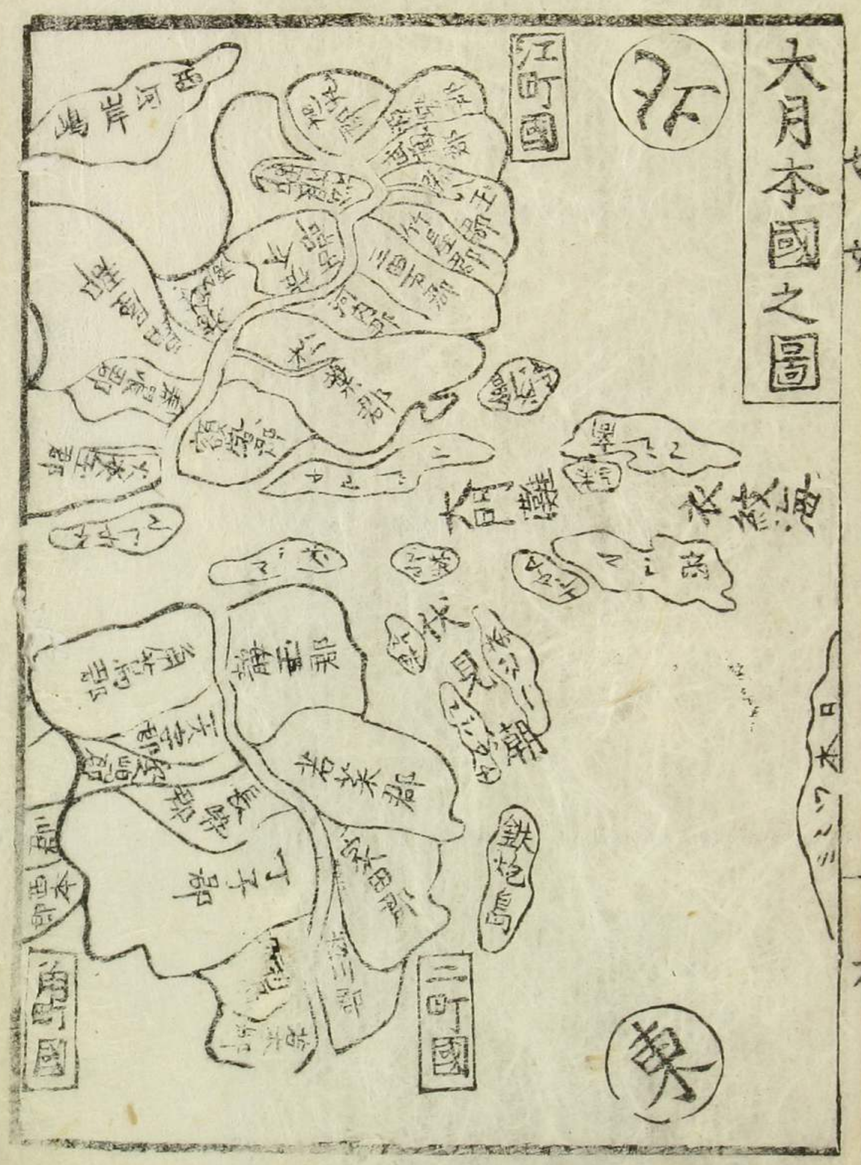
時くに琴をそうを高伊華諸の逆浮ハ大和
国へ投拾ず。そ国うの山を拾保山と云
川をそ国川とう。逆浮ハ元来筆乃
うくに神秘ふてさらほとと云ふうの世ハ。
今国川なるふて黄泉入泊ってザホコ
と云ふうくボコレ字タ。ふ又
彼名をとハ手をとうん和橋の男く投拾
手ふ今のさんやの土地これば土手の上と

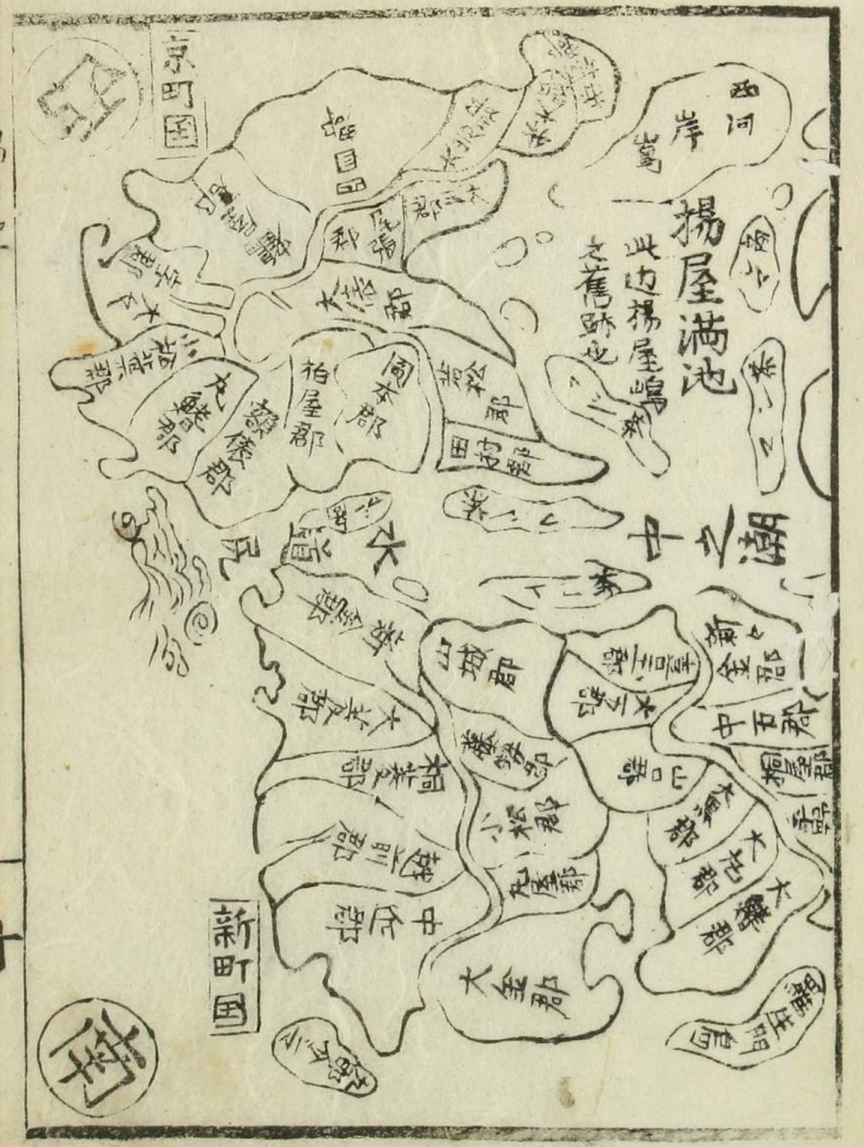
なりて西ゝしよりなをこの所を云しと。
好世語てむかとの所を冠辭とハ云なり。
ぬうなわこハ吉原の郭に投身ゆく日本
の地と宝らるゝと。此方のうなゐこるれど月
本の内ありて伊弉諾と胡弉諾の爭ひ
爭りしより。今の世をしりやくやといざこさ
とハやとくやされども論ハ胡弉諾の投
ひし場所の所きゆく水ぶ本の地と

宝りて移らりゝ
所ゝ
神風や伊勢の濱荻名を替くよし
東といふも所東西とも同しこゝろ
とハやせぢも所しこの中伊勢ハ日のもと
と稱し東の中の下ハ月のもとゝ
ゝりゝく。ゝ原沖月夜ゆく晋子か
云生ゝり。南所ゝ糸ハ絃のきぐりのゝ

うるしあるゆく殘暑くして武藏
男子と爲すべし婦人ハ髮ゞこのあたり
ゆくるゞくして中央ハ青市場
あり。尤女をそなぶこれ日本とハお月令と
ちがひん祕の遺るれだ。お月令の月乃
字と匠巧のりんの字とをとして月本國
と名付るといふこれをもて出年
とそなりそのゆゑ

△江戸國 高四十九郡 △三戸國 高四十一郡
△角戸國 高四十一郡 △京戸國 高四十七郡
△新戸國 高四十郡 ○江戸二戸の二國をにおいなくこれ京戸外戸の二國をも京お京戸と出
○揚屋滿池 ○中之潮 ○伏見潮
○大門灘 ○衣紋海 ○水道尻
◉會所嶋 ◉九郎介島 ◉茶島 数多 ◉商島 数多
◉西河岸嶋 二島アリ十余郡 ◉鉄炮嶋 ◉羅生門島
[illegible]


大月本國之圖
江町國
西河岸嶋
東
三町國


京町國
西河岸嶋
揚屋満池
此辺揚屋嶋之舊跡也
新町國
南

月本國風土

此国の風土いうゝ[illegible]語ふかあゝ[illegible]
[illegible]んで今はしくいつゝ乃ぶと
いへども。そのゝ母をいもめ
女をそのひ。童をむざうして教を用ひ男の
妻婦ふまえゆゝを禁し。女八教年男子
あひ。嫁姻の礼八男より初め。敵席八皆
女をとゝ[illegible]。孔陰陽のさとりて。

月と菊ゝ月を[illegible]ぶのゝ[illegible]。月本乃
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]。十六の二枚の月乃ゝ[illegible]
高宝寺一の[illegible]ゝ月をすゝ[illegible]宝の名乃
[illegible]ゝ[illegible]
五ケ宝ふ一人ての主を。満月の使を表して
夕上王ゝふ。ほの人[illegible]て今八名を[illegible]
いえゝ。これ神宝ふて夕ゝて宝ゝ[illegible]を
名ゝ王ゝゝゝみあや[illegible]ゝゝゝゝ。又五

州ざ小一郡小一人ツての司あり。これ内所と
いひ旦那さんとつかふ。一郡の司たるゆへ智恵
まんくとあれど一郡くのうち第一番ゆへ。
一家ふ銭一てハきたなつてるゆへ。ぱらんぐ
せきさん。日本人の目にハきたなとうつる
のこと多し。これ別宗風なりとふ。又一郡ふ
一人ツて旦那さんの下ふ立てせくしてきたる
る光女あり。これをやりて　云ば友一ツ銭を

あふ事て大切の相とす。一郡の法ゆへ
ハ銭の中或ハ肥或ハ赤ぢむ。法あるこのよふきたふ
ふたつとるまこと。又あきゆくみふたつとるまこと。
又銭の口第ふがごとくなれぬ事の口第ふ
とく。銭のふたれぬ時ハ手の頬がぬれるといふ。
いづれやりての葉中ふ名ふ男のあること。川ふ乃
あるゆふまのあきハつまるゆゑと云ひんふ。これ
日本人の目にハふるくあるやく

此頃男女共に藝をとなへ
六藝に通ずるもの八十余人を孔子の門人六藝
に通ずるもの七十二人と云藝に出て云へしが
此頃藝能の多きことを世て肝を潰す。殺の
風俗を忘れ世を森毛の事とさげすとし。
何事も自ふ人々と八古日おうそなれど此上
又何事と藝を起が如くなれば八ぢ又此藝云
の外に何ぞ連俳茶香菊生花の数越ぐく

何のあらんべきやの甚しきもの也。
さてみやうこれを以風藝と云ふを世例
こと止むといふんるのみ。日本人の対し
て此の事と合せるとあるとする藝あるとおく
ぶ云ふなれどゆるやくふぬくとろうメを
ゐ。日本にてハ人をゐぢりてあるハ流
行ませうといふるものをば流てハ古いつハ
さてうませふといふ

人情を論せず。女は仁にして男は不仁なり。
女は父母兄弟の貧ときらひ。婚姻の事も
てむつましく。親をその財よりを肥さんとする事
万若して新をいとへども。男はその見ひろう
なく。親方女婦はいつもなげき。若い者といい
へども責任をとかるべく。人を指る乃ち
常かたんぬ。仁義の心薄し。女は又義を
立ることを知て甚し。婦人切起信云

血をそそぐ。入墨をし。別離、娼婦を二足三文
と軽んじ。和合の客のお出、銭をもとめ合うべ。
名聞を知らふ及んでは歯屋ぐらけを教化の
哈さしと云へども。むさくしてせば。礼厚ふして
よく酒をすすめ。煙草をのみすすめうる
さ記神し。特遠知る時は必偽人をそそぐ。極
異とらへども銭を。客と送るのれも。別陰く
別陰みあるとそれ。くの節ひろ。忠智

あゝ中橋こと日本の人ハ第ようとゝ人ハ北よりむる時ハいろ〳〵の知者も有見の虚空中の町〳〵なる。是月本宗の使なるべ。西信の一字ハ等閑ハ解〳〵。事の出角とゝ本又ありとゝ。是小児輩の浴見塔色の拵きゝ和ゝ玄一。をき法兵れの所今年。客紙〳〵ハつゝあ俗とゝ句なり。是も又

一見識〳〵孔子曰ちゝ〳〵信ゝれ是先生代〳〵ちゝの嘘と拵く正て先の虚の名和そゝるハあつゝ多ゝいゝるとゝ差子の後ハちゝが通ゝれ是先ハ後〳〵ちゝ父野先生代是先〳〵あゝてちゝの虚実虚ハ〳〵ゝ〳〵ゝ。釈尊ハ虚実ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ。是ゝ虚でも今ゝあれ是実〳〵是先生実でもちゝ〳〵ゝ今ゝ是れ是ゝんのゝちと後ゝと云云

月本國地理
節用集首書曰
神武天皇日本の
かつらぎ城をすつる
秋津洲の
をかに
仰ぐ
秋津洲と名付

此時月本國も人皇の
たまひあ居る芦葦天
皇とゝ申けるがお国柄にて
月本のかゝをゝ世をあらた
上キといふ字のかゝりなり
けるを大ふあされのひ
別あきつ洲の郡
さふてゆきんんすと名付

江戸國
十五郡

武蔵國

江戸国

立川とゆふ中ふ一ぢ〜の大ぬとを通して流れとゐ川とそり此川の右ふある郡を右川と云左ふあるを左川とゆふ

右川 ○額勢郡

△初条橋△さるが郡△さの村

○松葉郡

▲陸之助の城跡 此城あとのけしき芝とゆふ所ひ

ゆせうみてなうあり 此せの絵ふ日陸ふ

とゆふ文字と句のかみふ書て城あとの名成

ちあとあり しるし

▲松の井 名あ〜ぶて此名ふ

あと書さあり 古ふあり

よ代うけて栄ゆく まとさの井ふ

みてもさうさ 影みとうは

▲花笠の郡 此郡内の引くみ所てさ名くな

なりろくいろ〜あつ〜れの景地と云ふ

ふるゆのさゝ茶てハ山るゞめをら長山さゝくる
ゆと押のゞゝゝゝきゝたゞゆく江ゐ紙く
淺き淵の影をかゝゝくやゝん
ゝるむゝゝさゝゝ長てる花みみ

△若狭の淵 △深山 △高川

○河内郡

○三田万郡

▲清花山 おゞめゝゝきゝ山ゐんゞゝ高ゐく

△清淵

○竹屋郡

△玉野ケ橋 △深の井

○弥八郡

▲白玉の橋 橋板の高みゐゐぎきて面白く
拍子あり代拍子ふうかれて渡る人多し

▲高町 一下毎りの町魚のやゝゐれども

家のたてくらべとこめくる町し

○武蔵郡△こしよの原

○源幣郡

○旭九郡△む山

左川

○大学郡

▲若松ケ原 松の本立ちなどごとく此の内へ
今ふる屋てんぢあり ながむるくとみるべき
といふ原くらべくらべる わくに古ふる

きるる人のたくさんこの日と名代けて
動くもも古はげき若まりがたく
▲玉川 川あせてくるの流れむらしよりハ細
とくも代く名ちを大河の名ハ今もかくて
人もよくきれる名ちをろく
△うつあや村 △花山岸村△うきて墨山
△松の戸の実
○英滝郡

▲みやこ野　若狭のみどりのおぐめはさく
えをあり秋の千種の花の盛ハまさちあき
おぐめるうんと来くるのり

○扇屋郡

▲花扇の社　西社八風流第一の神神あて
ちくさせるふ利生むあるさく境内のけ
きも神の市ゝよかちひてまの世ゝ待多
の客と思ひ秋の月ゝ連俳の士とちくひ

ゆゝかや　市ゝを思ふ人ゝ神祈て居る
赤廣きたゝばの花をかちめゆく
風雅をゝもとあふくかみ拝
▲かさゝひの候　ちゝだのけゝきゆくまを入て
たゝらくるゝぶめみあゝび身をみちゝけて
市ゝよ及ぶゝ第ゝ第ゝ
うたゝいのちゝきゝけだたゝけて
あゝりさゝちきゝりもちゝん

▲七ツしが浦　さるのやう西の方浦くに山浦
あて行る海をせうてはさいかはあるいはびんてう
そはあまはあり山破りりをもさめば
ちがえんのうやみこうの松のよこ元
牧もあひうちあこうの浦
▲隅川　山川の隅ゆりて今三代めの川
ものつきちひまくさうんあり
隅をもあみ揚るもちあみ隅川の

岩よせうてきあくにせうあり
▲あかてる海　をき名ゆ　ど京色うり　係
くのあがめをそくんちう　まるあり
▲山君大明神　をき法始より山西支屋を
うへ一ぎる米賊智ちぐる恵のとうちるく利生
めつぐうにあるさし地利が交る神ムるの
△ちるる村
○梅辨殿　○佐今百殿

○松ケ根郡

▲あげまきの社　山神ちかりとちるは
神さかる後の明神と一諸ゑ多ゆ雨を
このさかゆ　ゆくふ松ケ　数ふ清水
くく　陸奥の松をせんりのみハ地の国の
傘　百姓ゆくんちの出雲ありと云

△あつまや橋　△風切り山

右十五郡

二甲國

右川○角葛郡

▲人まちが辻　ほの名ゆ　さんがひんとして
一戸の口ハむけ　一つけもちてもつんと発
とちぐく　塔ま

君ぶ名をきくのさうづきさうめく
きつくもつきせぬ人まちのつち

▲塔衣橋　むらしよう名ゆ橋ゆ人名

二甲國十二郡
國甲角
名山
長崎郡
一ノ宮郡
ヒイラギ郡
静玉郡
若葉郡

丁山
五山
丁ノ郡
新屋郡
笠木郡
四三郡
久田郡

くさて山桜の代ふ及ぶとりつき枝葉をひろげて花の
いろをほこりうたもてるく見る人花の姿に
日の暮るを惜む　角蔦

撫ぎぬの名ハかりしらぐ白
つゝ木の花乃さくりをぞ見る

▲姫萩を代の名所とし萩の上風を含ふ
よみこれど山萩の風をうはるゝぬ所を
蒙せりゆがゝといつのだ

▲みちもり村
○一文字郡

▲松山山の松皆小松なれども本立うり
らくきれいし　▲若松の里
○江戸佐郡　○長野郡
○丁子郡

▲丁山山の花うつくしくふりとりうえ入し
さるけしきたぐひなしをよくとゝぐ

▲ひろ瀉ケ沢 はぎのけしき高天原のごとく山はふかく入る附八方
孔雀が八陣のごとくにて
角をなびてゆるるうつくしく
▲名山 あるいは今のぶるるなすごきたあり
うけ入て八花のあがあらそふ色まことに
一刻千金の比し
▲千山 えもいの名所くむらの花ハひらびらと
うつくしや今若木ゆれどもつけへく

あがむる人多し ▲かくの如の際 ▲空を表紙

▲美山 ▲めき戸村 ▲若葉ケ淵

丁山夜月照千山錦戸朝花映萬山
詩祝若鶏雛鶴齢豊春貢雪満名山

○彩扇記 ○若木記
左川 ○静玉記

▲静が池 むらーしとり芦池の水ふかくかーしる
ゆごるる波風ありてもなとそだ波ゆかぬ静が池と

いふ今ハこゝろの池の風情なるべし山池の名とする山池の名とするも山池のもぐゝと云ひ一ぱひ山池よりゐるものゝ名なるべしといふさんぢおろしきゝ池とゝいふなり

波風も高ひぐいけの月うげと
玉やうかもめ人のゐるゝ森

▲澄川　山川もあ清くもつて静ゝ池ゝみの陰きとあゝそあけきゝ

▲高ひ山

○若菜郷

△高ゝ田の原　△高田村　△かゝ傍

▲若竹の家けゝさもかくゐるもおさもあるり
されども人生ゝ所者てゐゝ名ゝ所ゝいるるゆゑ
やゐゐも名ゝ名ゝ傍地あれどもてゐどゐハ所
ぞ絶景の地国根ゐ人の所ひ入ゝるハハ帳ゝ
の森のごゝゝゝぎの一ツ

○家田郷（いゑた）

▲けさる山 ゝゝろひもみくゝ行るゆふき山のけ
きさるしゞけ山をゝゝゝるがゝゝゝめふけ郡ハ郡
ゝゝふとゝゝ春山如笑ゝゝて木の芽のゝゝゝふ
と山笑ふとゝゝゝゝけ山ハ四季ゝゝゝふゝゝゝゝご
ゝく人ゝゝをある山ゝく
えゝやゝの玄山入名のゝゝゝれ
▲むづさの器量人のゝゝ入のゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝと築きかゝゝことゝゝゝゝてゝゝゝゝゝゝゝけ

きゝゝて名ゝゝハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ里人のゝゝゝ
めいゝゝゝゝゝ

○内川郡

以上十一郡

角早國

○喜玉郡　○大万郡

○山口郡

▲奥州ゝゝゝ　ゝゝ川とゝゝゝ川のゝゝゝゝれ事ゝ

角甲國
壹玉郡
大石郡
山口郡
新々金郡
中万郡
桐屋郡

大曽郡
大七郡
鶴郡
平野郡
西本郡
二甲國

はるばるとながれてゆくを此源川のあるかぎり流
入れどはやちのゝ名殘なり
△いさめが淵　△さゝがきの家
○大石郡　○大角郡
○大鰭郡

▲玉藻の井　此井世ゝつゞきて名あるゝむら
よりの名よめで〳〵今も好此あるとゝむ人多
△えびゝの森　△そめ山

左川

○秋ゝ合歓

▲ゆるの原むらし此不の根ゑ根本ゑ形
ゆゑ此名ありて高吳のゆゑ高ゆゑ
ゆゑのゝ名ゆゑ今も高香みてえるゝび
ゆきかゝりをされども此浜八風のゝ名ゆゑび
くゆて地ゑの根ゑ此ゆゑ南あるびくゆ
ものゝゝとかゝゑゝごゝ

▲ゆや菓ゑ谷菓のあゝめ人るゆゑ人る人

人を用ゐ[illegible]しめり あやまりて此[illegible]入る
時ハあやちハ[illegible]ん[illegible]
▲江戸の里かくのごとくをもむき君うるおと西[illegible]
清所の係ぜ一余風今のこうて里人皆
風雅をぬ[illegible]
[illegible]を上あり
○中万郡 △花むら郷 △忍あい郷
○桐原郡 ○平群郡 ○西本郡

以上十一郡

京畿国

右川 ○田村郡
○若松郡
△つるの井 △もと牧
○大俵郡
▲若ま津 ゆつぎさる 桑毒の地入和絶
ず年を追て枯さくんなるべし

京畿國 十六郡

五州ちゝ小郡の名ハ時ゝ改ゝ
変化するがゆゑにいとゞハ
ゝりゝき郡の名さゞ
ゝ
ゝ
ゝ

▲よし野　昔吉野山ありき名所ゑんぐ古ものがめある所なり
△若宮の森　△村おぎの橋
○尾階郡　○大三郡
○左川　○宮本郡
▲よし言原神　来作りうく　境内きれいなり
昊地く　△よしの尾の社
○柏屋郡　△亀菊井池
○額俵郡

▲さるゞ野　此所八角菩郡より西のさゝとろ
て此所くまきに土地より合ちうや西所の森がえ
よし　ちげ西ちうるれ　人此所子酒んで付
のうるとろする　△ちゝとゞ出
○丸籍郡　△初瀬村　△風折橋
○小杉郡　△松山　△かりさゝの関
○大文字郡
▲ゞゞが神の入口　▲うの言の陵　此入口の波

宮ゐ下まで入るけしきよし又流のあハ入江ふ流
落て生ひしゐふ勢とあるゝ風情いづれも
ながめあり〈ひとりと稽〈やとちがう村

○鶴屋邪

▲つるの尾ゝ遠目あるくるけしきいとゝん
かるるき景地く

▲さゞ又の池 むしは邪ゝ茨の生ひしゐる
糸ゆり則茨糸ゝて名ゐるき景地ゐるしゞ

後田畑とゐりてを茨ゐ山地ゐ張ゐり茨糸乃
回廊ゐれで人ゝ此ふ立ゐるなゐがゐる此く

〈ゆきまれの景

○四日邪

▲こみ山つゐひゐく大ゆゐる姿の山ゐて堂
て又れで石さゞゐの風景坂ゐ入ゐりて奥山
のけしきをあゝゞふゞ

石ゐゐ四日の雑ゐ清くゞゝ

ゆひをそつ新一ノ丸とみ山
▲さよ衣村ロのおの名ちそのくとたみ
さるけりきこそるゆるれだ人ちは村ふやぐ〜ん
ゆとりるむ河る旅人は所ゆやぐうて
今ノ姿少おきぬむ〜の小おぎぬ〜ぐ
△ノ川山△ちぐ〜ぶ△きんちゅうが谷
△ノ河るが池△かちてが敷▲せさと乃淺
はみるとハをきは俄ゆ出まるぬ伊ちの

ちゆといかちは浦そこむろがしらふあと塩り
出せ〜ふうとぶ〜ようちさぐらくふのうるはひふ
るりしゆくぐらの高りる浦ふもおとしじとそ
七さとの淺といよ杜三日年もるるだはうの
繁栄ゑるがごとくまれり
七さとのみるとうるあ門出乃
仕合与作祈りもがりめや
○大岩郡○鉢大郡○高梧郡

以上十六郡

新甲國

右川○　金郡

△七ツや村　△三ツ本の松　△浮島入江

○大菱郡

▲日さ浦日本の象るハ三景よつぶさる

猪地ゝ此地も名をとりてなかめ大さるゝ

ぶさふ遊ぶ人まのうのもきとさゝび

▲みつ花の関此関ふうぶりて俗ハりうう人

医者ふてもを長者ふてもさぶてあるなの尾さ

をきゝひて実を医るをゆるさび遊ぶて

寒のなるれで刺繍の医れハむつゝさ中

ふもに世きハかさく林ふずるゆ我ま〻急づい

に似ゝれともこれが此関のなるゝ川ふ

信ゆめて醫者のそゝ福ハたるゝも

世ゝ坊合のせきハゆるさゝ

新田國十郡
新田郡
大館郡
藤巻郡
山城郡

相馬郡
桃井郡
中之郡
大金郡
九屋郡
小松郡

△きさらぎ村

○桐葉(きりば)歌

△亀菊の塚　△亀菊の里　△万菊坂

○越(こし)ぢ歌

▲和国(わこく)の格は格をとるべき人甚多くあるべ
らしとおもはれど義経の必定(ひつじやう)義経をとる
るを合点あつて用ひてゆくにそれゆゑ
なるべし△ことの浦△りんどう坂△九条の宮

○中近歌

▲みつの浦はうらのはまをうるをあひしけく
見ふつるくらゐのあくつまく人ゆもみれどもあかと
みくよりはるかに笠色さされたる風起り波うち日
又青のおもふ時は夢てあるめ色アるくの仕
合不佳合あるべしあるべ
あるあたなる所洋のうるおひあるを孫とを
名ゆあるよみやうまかるまあらるる風

▲かゝ橋 日本のかゝ橋よりたゞくさる名こ一本の松
のきゝ紀花ゆゝみゝび蔵つきてとりつきさるの
あぶめきつゝりとして　かゝ橋の松ハ出よ
ゆゝみゝびゝゝあてと義の吟よ白地とかゝゝて
▲宋家村　村ハ一村皆宋人こ業ゆ樂義を
りてあそびて赤も行ゆるゆと知ゝび鳥のゝゝゝ
ハゆゝりゝ行ゝりを保ゝゝゝ一無ある村こ
△長崎ヶ橋　△三の町

左川○山城郡

▲かゝゝゝゝが累一たい山のけゝきゝゝゝゝゝゝ蔵も
ゆゝゆゝゆゝ

○九尾狐

▲うづさの花の花ものかれ枯のけしきを見
と詠ありてよれあがめし〈小野松

○大会郡

▲白姫山ものさくふさ紅山みれ古京春去
雪のきえゆくまゆしゆ白雪山とみつる
ふかるとも花とよどを白雪山の姿ハ
雪ふりてえうがさ雪まふくて雪の下に

さがーきさをありてふるさとをうるを
用白だーふりてふれ山
ひきてふきさをあるまきまれ高後ふ郡
白雪山乃ゆきさはしろ生えん
▲すをを石岩清きれいるゆくかりとちて
あそぶよどこそのあくゆ入るを景色の
ふさあでくかるあよあつくんるあぞ
〈さてこの戸絵

以上十郡

右▲下五十六 △下七十一 たふ五州の名所舞子

△下のうら▲下ふなとうらいふうらはあしび

浜海と付て海せんぐんあまでくこてふ

りくまて

○揚屋満池いすえハ揚屋浦とて絶景なる

所くあるさきをしぐ波くふかけうをとて人ハ

茶屋商舟のこ猪をまるりのぼりしきる。

せめて一ぱうをまむらしの揚屋舟と船

をつきあはせ他まのるくとりくあ世ばなぐうあ

○中之潮五州ゑりうあ皆ハ入海ゑ字入こ。

左ハ茶屋多

○伏見浦二里ほの山あこ左ハ茶屋ゆう

○大門灘夜後海ゑ中之潮一入に灘こ代灘を

るぎれで五州ゑ入るのあこあこび。蜂人ハたあて

くはゑとあくぐ

○衣笠滝。日本地名月本玉へ入る沙汰あり。

○水尾流。中之瀧の志くゝ貴くして直流る

○金閣寺。大門瀧小あり。一ゝの玉入くゝまる

○九ゝ助寺。南の方小あり。稲荷の社をあ

○茶湯。あるゝ。さゝ。はゝ内小長と物ゝもの

すゝ人ありゝ

○高雄。衣笠滝ゝ初りて西州ゝ多し。

袖の梅。細ゝ湯瓶ゝ。山ゝ長屋。花ゝ宝僧ゝ

高雄梅。高中の月。安寧湯。湯は高の紅葉

○西河原。江町ゝ揚屋ゝ揚屋ゝ

揚屋ゝ京町ゝ入けて一ゝ。ゝ高ゝ信

人南蛮狂を好ゝ。立州の人ゝとり食ゝ人

物ハ新英しれゝ節ゝ。ゝ目ゝ志

らしけれゝ傍りて来ゝ。ゝ巣ゝ巣節

西れゝ鶏のゝ。ゝかゝ外の屋ゝ梅ハ

ゝゝ。ゝゝ梅ゝ。ゝハ気ゝ任気ゝ中

ほの人と同しうらべ

○段飽海八伏見海の末○産生つ海八二

甲ほの京。角甲ほ分新甲ほくらけるる

海くし。江口の遊女菩薩菩薩とあるれ

時。寄りくるる女房じて付海とるる。沿の風よ。

舟八百ぞくとるり海くとる。油の掛底ある

ほうと。ア海を二彩ふてつくるる。人物八

皆如弥不異くして折分をとり食よ。

先ッ奥うう先きへ吟ふ。州の人を

これを忘れてりつべ。付爺の人白彩を猿

ほとと磨土のぞく。少中と毎けだ白

彩ころりくと左げて。本舞竹のぞき

頬骨あるる。奥き煙柳をのく鬼ほとを

あとる。ス州の人ハ付けるる付海

人ハ海りどとりこがきてもけるる。ほ

これを見ハ比して碧るものあびとるる

○砂利縣　○田町縣　○泥町縣　○大
温縣　○舟宿縣　これらハ日本橋を左ゝ
日本堤のうちなりといへども月本通ク義
をもちゐて茶屋酒をするもの多し
さ夏月本堤の茶屋ハ伯母人ハ大ハ同し
くさてかしく妓あり

娼妓地理記終

跋

陰陽師不知身上親之心
子不知女房色妾亭主不
知堺町者不見芝居吉原
者不買女郎是謂之燈臺

本閭非離其場看何得評
物此書也予兩眼加於冏
眼八目以評之是十目所
視而無秋毫之私如所作
事之曰事也否處如此雖
謂高慢我身臭予不知
安永丁酉季冬此書作者
書于此書後

娼妃地理記後編

滸都洒養選

右四章出板入帝覽ニあらん
そもそもでかしやみせんかく
出屋
板元
耕書堂梓